

| 教学入門(3)十界論と一生成仏 |

1. 十界

十界とは 生命の状態、境涯を十種に分類したもの。仏法の生命観の基本。
 十界互具とは・十界のそれぞれの生命が互いに十界を具えていること。
 縁によって、今現れた次の瞬間に他の生命境界を現わし得ることが明らかになった。

①	地獄界	「瞋(いか)るは地獄」 苦しみに縛られ、生きていること自体が苦しい、何を見ても不幸に感じる最低の境涯	三悪道	四悪趣	六道
②	餓鬼界	「貪(むさぼ)るは餓鬼」 際限のない欲望にふりまわされ、心が自由にならずに苦しむ「貪り」の境涯			
③	畜生界	「癡(おろか)は畜生」「畜生の心は弱きをおどし強きをおそる」 因果の道理がわからず、善悪の判断に迷い、目先の利害に従って行動してしまう境涯			
④	修羅界	「諂曲(てんごく)なるは修羅」 常に他者に勝ろうとする「勝他の念」を強く持つ境涯 表面上は人格者を装い謙虚さすら見せるが、内面は自分より優れた者への妬みと悔しさに満ちている、裏表のある境涯。	二乗	四聖	
⑤	人界	「平(たいら)かなるは人」 因果の道理を知り、物事の善悪を判断する理性の力が働いている境涯			
⑥	天界	「喜ぶは天」 欲望が満たされ、喜びに浸っている境涯			
⑦	声聞界	「世間の無常は眼前に有り豈人界に二乗界無からんや」 仏の教えを聞いて部分的な悟り(無常)を得た境涯			
⑧	縁覚界	様々な事象を縁として自らの力で部分的な悟りを得た境涯			
⑨	菩薩界	「無願の悪人も猶妻子を慈愛す菩薩界の一分なり」 仏界という最高の境涯を求めていく「求道」と、自らが得た仏法の功德を他者に分かち与えていく「利他」の実践の境涯。 「慈悲」を根本にした境涯。			
⑩	仏界	「日蓮がたましひをすみにそめながして・かきて候ぞ信じさせ給へ… 日蓮が・たましひは南無妙法蓮華妙に・すぎたるはなし」 「末代の凡夫出生して法華經を信ずるは人界に仏界を具足する故なり」 「法華經を信ずる心強きを名づけて仏界となす」 自身の生命の根源が妙法であると悟ることによって開かれる 広大で福德豊かな境涯 → 無上の慈悲と智慧を体現し、一切衆生に仏界の境涯を得させる 戦いを実践し続ける。			

六道 … 環境に左右されている境涯
 四聖 … 環境に支配されない、仏道修行によって得られる境涯

2. 一生成仏

信心の根本目的 = 私たち自身が仏の境涯を得ること。

一生成仏とは…

御本尊を信受して自行化他の実践に励むならばだれでも必ず一生のうちに成仏の境涯を得ること

「成は開く義なり」

「桜梅桃李の己己の当体を改めずして無作三身と開見す」

3. 相対的幸福と絶対的幸福

相対的幸福とは…物質的に充足したり欲望が満ち足りた状態。

絶対的幸福とは…どこにいても何があっても生きていること自体が楽しい境涯。

外の条件(環境)に左右されない幸福。

成仏とは【絶対的幸福の境涯の確立】である。

相対的幸福… 死によって途絶える

絶対的幸福… 「自身法性の大地を生死生死と転ぐり行くなり」